



酒々井町長 小坂泰久

100年安心して 住めるまちづくり



『子どもから高齢者まですべての人たちがいきいきと安心して暮らし、
幸福を実感できるまち』を目指して

平成29年12月、小坂町長が無投票当選により再選され、町長として第4期目を迎えました。再選後、初めての議会となる12月議会定例会の冒頭、小坂町長が所信表明演説を行いました。

本日ここに平成29年第6回酒々井町議会定例会を召集いたしましたところ、議員の皆様におかれましては、年末のご多忙の中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

本日は、町長に再選いたしました初めての議会でありますので、ここで私の所信を申し上げます。

さて、近年の日本の政治・社会・経済情勢の変化は、地方自治において、基礎的自治体としての自立と、地域住民を強く意識した行政運営への転換を求め、さらに、人口減少という、避けては通れない事態を前に、「地方創生」という大きな課題に対し、各地方自治体は、独自性豊かで大胆な施策展開を模索しています。

こうした時代の変化に対応し、酒々井町が今後も持続発展し続けるため、私はこれまで3期12年間の町政運営において精魂を傾け努力してまいりました。

振り返りますと、平成の大合併という大きなうねりの中、住民投票により酒々井町が独立・独歩の道を選択した直後、私の第1期目がスタートいたしました。就任直後は、世界的な金融・経済危機が深刻度を増し、急速に進む少子高齢化、地方主権や規制緩和、さらに政権交代による新たな国の仕組み等、まさに時代は大きな変革の時を迎え、小規模自治体としての存続をかけ町の借金体質からの脱却を目指し、行政改革に取り組んでまいりました。

第2期目は、町民福祉の向上と町の均衡ある発展を図るため、町の品格・品質の向上と、町民生活の質を高めることを念頭に、子ども医療費の助成拡大など子育て支援の充実や、保育園・学校施設耐震化100パーセントの達成、全教室へのエアコン設置及び太陽光発電設備の整備など教育環境の充実や、安全・安心のまちづくりなどに積極的に取り組んでまいりました。

そして、平成25年3月、永年の町の悲願でありました酒々井南部地区新産業団地のまちびらき、同年4月、酒々井インターチェンジの開通と酒々井プレミアム・アウトレットの開業により、酒々井町は新たな時代の扉を開きました。

第3期目においては、アウトレット効果により交流人口が急増する中、「酒々井」の知名度・地域ブランド力の向上による波及効果を、活力あるまちづくりに活かせるよう努めてまいりました。お陰様で、アウトレットは順調に第3期増床計画が進行中であり、周辺には温浴施設や産直施設等がオープンしたほか、街中においては、町民の皆様からの要望が最も高かった病院施設が、平成31年開業に向け準備を進めております。

さらに、防犯ボックスの設置、郷土愛やふるさと意識を醸成する酒々井・千葉氏まつりの実施、子育てを支援するファミリー・サポート・センター事業の開始など、町民生活に身近な施策の充実にも取り組んでまいりました。



酒々井・千葉氏まつり

こうした私の町政運営に対し、町議会、また、多くの町民の皆様のご理解とご支援をいただき、深く感謝を申し上げる次第でございます。

しかし、ご承知のとおり、この間、国内では人口減少問題の深刻さがクローズアップされ、地方創生の機運が高まりました。これに対し町では、「酒々井町人口ビジョン」において、2060年の将来目標人口を17,000人と定め、その目標達成のため「酒々井町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、総合計画のアクションプランとして位置づけました。

したがって、私の第4期目は、これらのアクションプランを一つひとつ、戦略的かつ着実に実行することにより、団塊の世代が75歳を迎える2025年危機においても、しっかりと自治体としての持続可能性を堅持し、町としての魅力を高められるよう人口減少問題に挑戦してまいります。

特に福祉分野におきましては、平成31年4月に上岩橋地域に開院予定の（仮称）酒々井病院を拠点として、可能な限り住み慣れた地域で、高齢者の皆さんが自立した生活が送れるよう、その人の状態に応じて、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向け、取り組んでまいりたいと考えております。

そして、3月の施政方針でもお示ししましたとおり、平成29年度にスタートいたしました第5次総合計画、後期基本計画では、基本構想で示された基本理念「みんなが主役、未来へつなぐまちづくり」に基づいた、将来都市像「人 自然 歴史が調和した活力あふれるまち 酒々井」の実現のための6つの基本目標の実現に向け、前期基本計画での成果を継承しつつ、着実に各種施策に取り組んでまいります。

さらに、私の4期目、第4ステージとしまして、5つの施策に取り組んでまいります。

第1に「だれもが安全に安心して暮らせるまちづくり」として、

平成29年度より運営を開始した「酒々井町防犯ボックス」の効果的な活用をはじめ、地域の消防団、自主防災組織、自治組織、ボランティア団体等との協力関係を強化し、町の実情に合わせ、積極的に防災・防犯対策の充実を図ります。子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる新たな町民参画システムによるまちづくりを目指し、地域住民と行政との連携による取り組みをさらに進めてまいります。

第2に「子どもを産み育てるなら酒々井町で」として、

中学生までの子ども医療費助成の継続や、妊娠・出産・子育てを切れ目なく支援する子育て支援拠点を整備し、また、郷土史、民話などを幅広く活用して郷土愛を育み、子どもたちがずっと酒々井に住み続けたいと思えるような教育を推進します。

第3に「誰もがいきいきと生活できるまちづくり」として、

平成31年開業予定の病院施設と連携を図りながら、健康寿命の延伸、介護予防を目的とした施策に取り組めます。また、町が委託している地域包括支援センターや社会福祉協議会等との連携を密にし、在宅を中心とする地域包括ケアに向けた取組を進めます。

第4に「魅力ある雇用の場をつくり定住者確保へ」として、

商工業や農業の振興をはじめ、南部新産業団地・墨工業団地を中心に、酒々井インターチェンジ周辺地区の土地利用も含めインターと成田国際空港への近接さを活かした企業誘致を積極的に進め、雇用の場と定住者の確保を図り、企業進出による新たな税収源を確保することで、高齢者の増加による個人町民税の減収分を補います。

第5に「シティプロモーションで魅力発信」として、

酒々井プレミアム・アウトレット、しすい・ハーブガーデン、旧石器時代（約3万4千年前）からの文化遺産を含め、本佐倉城跡・酒々井宿を中心に、酒々井町ならではの特徴ある文化・歴史遺産や景観、特産品等を発掘・育成し、地域のブランド力向上に努め、それらの魅力を発信し、活動人口や交流人口の増加につなげてまいります。

以上、町政運営の指針として申し上げましたが、高齢化に伴う社会保障費の増加や公共施設・インフラの維持更新、魅力ある学校・教育環境整備や、子育て支援の充実等、山積する行政課題に対し、今一度更なる行政の効率化・深化を図るなど、引き続き無駄を省き行政効果を高め、住民参加、明朗行政を推進し、持続可能性都市として人口と安定した財源の確保を重視しつつ、これらの施策を戦略的に進めてまいりますので、議会をはじめ町民の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の所信の一端といたします。よろしく願い申し上げます。

第4ステージ 5つの施策



①誰もが安全に安心して暮らせるまちづくり

- ・「酒々井町防犯ボックス」を効果的に活用
- ・地域の消防団、自主防災組織、自治組織、ボランティア団体等との協力関係を強化
- ・子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる新たな町民参画システムによるまちづくり



②子どもを産み育てるなら酒々井町で

- ・妊娠・出産・子育てを切れ目なく支援する子育て支援拠点を整備
- ・郷土史、民話などを幅広く活用して郷土愛を育み、子どもたちがずっと酒々井に住み続けたいと思えるような教育を推進



③誰もがいきいきと生活できるまちづくり

- ・平成31年開業予定の病院施設と連携を図りながら、健康寿命の延伸と介護予防
- ・町が委託している地域包括支援センターや社会福祉協議会等との連携を密にし、在宅を中心とする地域包括ケアに向けて取り組み



④魅力ある雇用の場をつくり定住者確保へ

- ・酒々井インターチェンジ周辺地区の土地利用の高度化
- ・インターと成田国際空港への近接さを活かした積極的な企業誘致
- ・雇用の場と定住者の確保を図り、新たな税収源を確保することで、高齢者の増加による個人町民税の減収分を補てん



⑤シティプロモーションで魅力発信

- ・酒々井町ならではの特色ある文化・歴史遺産や景観、特産品等を発掘・育成
- ・地域のブランド力向上に努め、それらの魅力を発信し、活動人口や交流人口増加へ